十勝川　音更町立木野東小学校で防災学習・避難訓練を実施しました

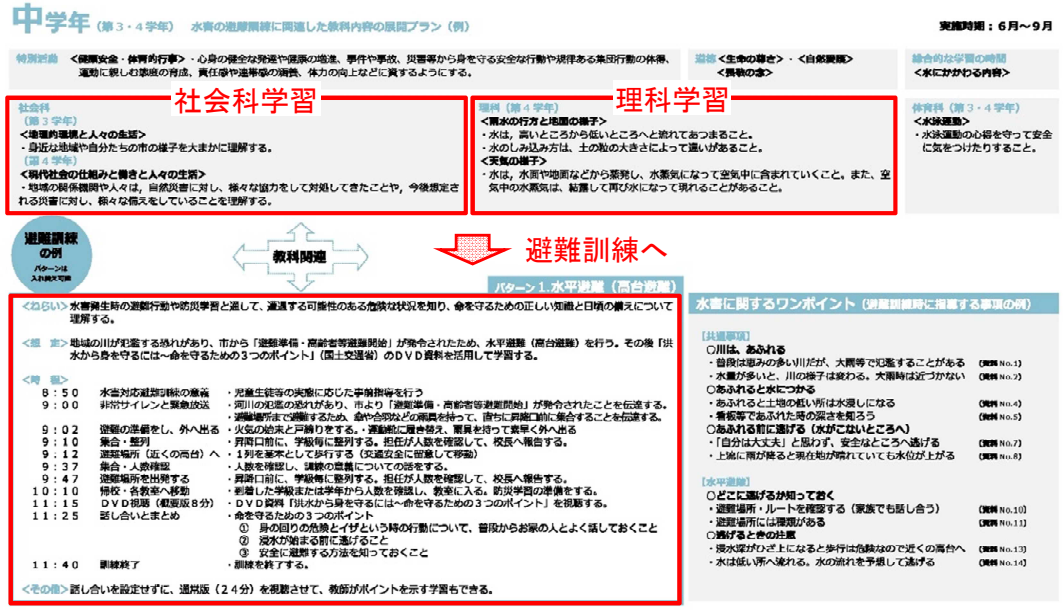
十勝川外
減災対策協議会

概　　要：音更町立木野東小学校の4年生を対象に行われた防災教育への支援を実施。
「水災害からの避難訓練ガイドブック」を活用し、新学習指導要領を踏まえた理科及び社会に関わる教科内容での学習及び避難訓練の支援を実施。

実 施 日：理　　科　令和元年9月11日（水）・・・川の水の仕組み
社　　会　令和元年9月12日（木）・・・洪水から暮らしを守る人たちの仕事
避難訓練　令和元年9月17日（火）・・・浸水範囲を理解し、避難所までの経路を確認

学　　校：音更町立木野東小学校　4学年　3クラス　106名

水災害からの避難訓練ガイドブック



中学年（第３・４学年）　水害の避難訓練に関連した教科内容の展開プラン（例）

実施時期：６月～９月

特別活動　<健康安全・体育的行事>・心身の健全な発達や健康の増進、事件や事故、災害等から身を守る安全な行動や規律ある集団行動の体得、運動に親しむ態度の育成、責任感や連帯感の涵養、体力の向上などに資するようにする。

道徳　<生命の尊さ>・<自然愛護>　<勤労の尊>

総合的な学習の時間　<水にかかわる内容>

社会科学習

社会科（第３学年）
<地域の環境と人々の生活>
・身近な地域や自分たちの市の様子を大まかに理解する。
（第４学年）
<現代社会の仕組みと働きと人々の生活>
・地域の関係機関や人々は，自然災害に対し、様々な協力をして対処してきたことや，今後想定される災害に対し、様々な備えをしていることを理解する。

理科学習

理科（第４学年）
<雨水の行方と地面の様子>
・水は，高いところから低いところへと流れてあつまること。
・水のしみ込み方は、土の粒の大きさによって違いがあること。
<天気の様子>
・水は，水面や地面などから蒸発し、水蒸気になって空気中に含まれていくこと。また、空気中の水蒸気は、結露して雨び水になって現れることがあること。

体育科（第３・４学年）
<水泳運動>
・水泳運動の心得を守って安全に気をつけたりすること。

避難訓練の例　パターンは入れ換え可能

教科関連

避難訓練へ

パターン１.水平避難（高台避難）

<ねらい>水害発生時の避難行動や防災学習と通して、遭遇する可能性のある危険な状況を知り、命を守るための正しい知識と日頃の備えについて理解する。

<概　要>地域の川が氾濫する恐れがあり、市から「避難準備・高齢者等避難開始」が発令されたため、水平避難（高台避難）を行う。その後「洪水から身を守るには～命を守るための３つのポイント」（国土交通省）のＤＶＤ資料を活用して学習する。

<時　程>

８：５０	水害対応避難訓練の意義	・児童生徒等の実態に応じた事前指導を行う
９：００	非常サイレンと緊急放送	・河川の氾濫の恐れがあり、市より「避難準備・高齢者等避難開始」が発令されたことを伝達する。
		・避難場所まで避難するため、金や合羽などの準備を持って、直ちに昇降口前に集合することを伝達する。
９：０２	避難の準備をし、外へ出る	・火気の始末と戸締りをする。・運動靴に履き替え、帽子を持って素早く外へ出る
９：１０	集合・整列	・昇降口前に、学級毎に整列する。担任が人数を確認して、校長へ報告する。
９：１２	避難場所（近くの高台）へ	・１列を基本として歩行する（交通安全に留意して移動）
９：３７	集合・人数確認	・人数を確認し、講師の意義についての話をする。
９：４７	避難場所を出発する	・昇降口前に、学級毎に整列する。担任が人数を確認して、校長へ報告する。
１０：１０	帰校・各教室へ移動	・到着した学級または学年から人数を確認し、教室に入る。防災学習の準備をする。
１１：１５	ＤＶＤ視聴（概要版８分）	・ＤＶＤ資料「洪水から身を守るには～命を守るための３つのポイント」を視聴する。
１１：２５	話し合いとまとめ	・命を守るための３つのポイント ① 身の回りの危険とイヤな感じという時の行動について、普段からお家の人とよく話しておくこと ② 浸水が始まる前に逃げること ③ 安全に避難する方法を知っておくこと
１１：４０	訓練終了	・訓練を終了する。

<その他>話し合いを設定せずに、通常版（２４分）を視聴させて、教師がポイントを示す学習もできる。

水害に関するワンポイント（避難訓練時に指導する事項の例）

【共通事項】
○川は、あふれる
・普段は思みの多い川だが、大雨等で氾濫することがある　【資料 No.1】
・水量が多いと、川の様子は変わる。大雨時は近づかない　【資料 No.2】
○あふれると水につかる
・あふれると土地の低い所は水浸しになる　【資料 No.4】
・看板等であふれた時の深さを知ろう　【資料 No.5】
○あふれる前に逃げる（水がこないところへ）
・「自分は大丈夫」と思わず、安全なところへ逃げる　【資料 No.7】
・上流に雨が降ると現在地が晴れていても水位が上がる　【資料 No.8】

【水平避難】
○どこに逃げるか知っておく
・避難場所・ルートを確認する（家族でも話し合う）　【資料 No.10】
・避難場所には種類がある　【資料 No.11】
○嫌がると命の危険
・浸水深が膝上になると歩行は危険なので近くの高台へ　【資料 No.13】
・水は低い所へ流れる。水の流れを予想して逃げる　【資料 No.14】

学習の流れ

①理科の授業で基本的な水の循環を理解
②社会科で災害時（水害時）の備え等、防災について理解
③水の循環、防災について理解した上で避難訓練を実施
実際に避難所までの経路を歩いてみる。

防災学習・避難訓練実施状況

防災学習の主体は先生が進行

ポイントで国土交通省職員の解説

「天気によって川の様子が違う。」「災害は何時起きるかわからないので日頃からの準備が大切」などの意見があがった。

音更町職員から
避難するときの心得について説明

北海道防災マスターから
H28出水の様子を説明

「避難訓練やこれまでの学習を災害にあった時に生かせるように心構えておくことが大切だと感じた」などの感想が発表された。